



ソフトウェアサイエンス主専攻

情報システム主専攻

知能情報メディア主専攻

情報科学類編入

筑波大学情報学群 情報科学類

2010-2011

<http://www.coins.tsukuba.ac.jp/>

情報科学類へようこそ

情報科学類長

山口 喜 教



今日、コンピュータを利用した情報技術は社会の基盤として浸透しており、社会のあらゆる仕組み、人間のあらゆる活動において、もはや欠くことのできないものとなっています。しかしながら、これからの社会では、これまでのコンピュータやネットワークの発展に加えて、世の中におけるコンピュータの存在が劇的に変化していくと考えられています。日常的に接するあらゆるものにコンピュータが埋め込まれ、お互いに情報を交換しながら必要な処理を行うという「コビキタスコンピューティング」の時代が目前にあります。情報科学類は、このような「これからの新しいコンピュータ革命」に必要な考え方や技術を学ぶ場として、さらに進化していきます。

本学類は、情報に関する科学と技術の基礎や応用力を身につけ、情報のプロとして現実の様々な課題を解決し、豊かで秩序ある社会の実現に貢献できる人材の育成を目指しています。基礎技術から応用技術、ハードウェアからソフトウェア、そしてマルチメディア処理や知能ロボットまでをカバーする幅広いカリキュラムにより、日夜発展する情報科学技術の多様な側面を幅広く、また、その原理や仕組みを奥深く学習することができます。本学類の教育の特徴は、「筑波スタンダード(学士課程における教育宣言)」にて以下のように宣言しています。

- ▶ 情報技術に関する幅広い基礎知識と深い専門知識のバランスの良いカリキュラムです。
- ▶ 実習・実験・演習を主体とした実践的教育を実施しています。
- ▶ 学生個人の主体的能力を引き出す特徴的な科目群を用意しています。
- ▶ 社会・産業界と連携し、専門性とコミュニケーション能力を高める科目群を設けています。

▶ 卒業研究は、大学院システム情報工学研究科の最先端の教育研究と連動しています。

実践的な教育として、特に、2009年度からは、実際に企業で製品開発に携わっている講師の方から具体的な事例なども含めて大学内でトレーニングを受けることができるという「組み込み技術キャンパスOJT」というユニークな取り組みも開始されるなど、そのカリキュラムや教育内容も進化を続けています。

情報科学類は、これまで筑波大学における情報技術分野の教育の中核を担ってきた情報学類を受け継いでいる学類です。情報学類は、国内の大学における情報専門教育組織のさきがけ的な存在として1977年に設立され、これまで日本における情報教育において大きな貢献をしてきました。情報学類の卒業生は社会から極めて高い評価を受け、様々な分野で活躍しています。

本学類を担当する教員の質と量は、情報分野では日本最大級を誇ります。また、大学院のコンピュータサイエンス専攻やリスク専攻と様々な形で連携をとっており、コンピュータサイエンスに関係する最先端で活躍する一流の研究者から直接講義や研究指導等を受けることができます。卒業後は大学院でさらに勉学を深めることができる高度な教育研究環境が用意されていることは言うまでもありません。

情報科学類を通じて、新たな情報化社会の構築に参加する意欲を持つ諸君を心より歓迎します。

身の回りに深く浸透しあまり意識されることはありませんが、情報科学は社会基盤を支えるという重要な役割を担っています。例えば、携帯電話を利用して友達とメールのやり取りができます。道路では信号機などの交通管制が行われており、コンビニではレジと連動したデータベースが商品や顧客情報を管理しています。また、飛行機・鉄道や宿泊施設の予約システムや銀行のオンラインシステムなども挙げられます。最先端分野でも情報科学を抜きにして語ることはできません。宇宙産業やゲノム科学などでも情報科学は重要な役割を担っています。



情報科学類は、このような社会基盤を支える情報処理のための科学—情報科学—を探究し、人と社会の役に立つ技術を創り出す学類です。情報科学とは、既存の科学・工学を基本として更なる発展をもたらすための学問です。そこで情報科学類では、情報科学に関連する幅広い知識と高い専門性を身につけ、実社会における種々の問題を高い倫理観のもとに解決する能力を身につける教育を行います。ここで、情報科学類の教育の特徴を3つ紹介しましょう。



第一の特徴は、情報分野で国際標準となっている最新の授業体系で必須とされている科目を網羅している事です。これらの科目は、主として1・2年次の専門科目及び、3年次の主専攻共通科目として学習し、情報科学類のすべての学生が身につける共通の知識基盤となります。



第二の特徴は、3・4年次において、ソフトウェアサイエンス、情報システム、知能情報メディアという3つの主専攻に分かれて、専門的学習を行うことです。この主専攻の構成は情報科学類独特のものであり、実社会からの要求に合わせた教育に加えて、大学院における最先端の研究と直結しているという特徴があります。



第三の特徴は、自主性と多様性です。学生が自分で設定したテーマについて学習する「情報特別演習」の授業は自主性の好例です。また、主専攻ごとの実験(3年生)と卒業研究(4年生)では、世界でも他に類例を見ないほど多様で充実したテーマを用意し、学生が自分の意思でテーマを選択するシステムを提供しています。

情報科学技術に対する需要は、社会の発展とともに、今後さらに増大していくと予想されます。情報科学技術に関する幅広い基礎知識と実社会で生じる新しい課題の解決に応用する力を身につけるための教育を情報科学類は行います。またこれに加えて、より高度な知識を得て情報科学の研究を行いたい、という学生には最先端の研究と直結するテーマを用意して大学院への道を示します。



Message

先輩からのメッセージ



前田 充

1985年卒

キャノン株式会社
SOCデザインセンター

主幹研究員

筑波大学はその歴史も約30年という比較的若く、また、コンピュータや情報に関する学問の歴史も新しいものです。卒業後、OB会の活動に携わらせていただいております。長年、先生方、学生・OB・OGの皆さんの活躍を見ていますが、情報科学類はこの分野の最先端を走り続けていると実感しています。新しい大学で新しい分野への取り組みが、常に新しいことに積極的に取り組む姿勢を生み、最先端であり続ける気風を今でも情報科学類全体に感じることができます。

また、大学には優秀な先生方がおられ、最新の研究設備が整っており、学業、研究を行う上でこの上ない環境です。このような雰囲気、環境の中で得た知識、経験、技術、友人は、社会人となった後にも大いに役立っています。私は卒業後、画像を扱う技術の開発に携わっています。画像という情報を処理して活かすことを大学で学び、今でも自分の考えの基本としています。

皆さんにはこのような環境の中で多くのことにチャレンジして、自分に合った道を見つけ出し、社会で活躍されることを期待しています。



国則 正人

1990年卒

ソニー(株)
B2B事業本部
FeliCa企画開発部門
事業戦略部

1990年に入社後、「VAIO」、「Walkman」、電子書籍「Reader」などの電子機器の商品企画に携わってきました。現在は海外での新規事業開発に従事しており、日本と海外とを行き来する日々を過ごしています。

筑波大学で過ごした大学時代、私は情報科学類の前身である情報学類で学ぶ傍ら、体育会硬式庭球部に所属し活動していました。私の「公」である仕事を支える知識を学ぶと同時に「私」の大切な一部である趣味と趣味を通じた友人という人生の土台を築くことができた4年間でした。筑波大学には学業を尊重しつつサークル活動も両立できる校風と環境が整っていると感じました。

IT業界は変化が激しく、常に新しい知識の吸収が欠かせません。しかし根底にある考え方や技術は共通なことが多く、情報学類で学んだ基礎はその後の人生において新しい知識を身につける上で常に力となってくれました。

皆さんもぜひ筑波大学で「公」「私」両方の基礎を充実させてみませんか？



吉田 尚史

1996年卒

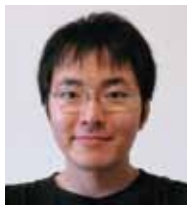
駒澤大学
グローバル・メディア・
スタディーズ学部

私は1992年に情報学類(当時)に入学し、大学院を経て、慶應義塾大学SFCでしばらく教えた後、現在は駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部(2006年4月設置)でIT系の教員をしています。新しい学問を切り開くこの学部の設立に関わった際、基礎として情報学類で学んだことが大変役立ちました。

情報科学類は、コンピュータサイエンスの基礎的な技術を学び、さらに、次世代情報化社会のための「情報」についての先端的な研究を行う場です。私はここを卒業したことを誇りに思います。世界の第一線で研究活動をされている先生方からの講義や、ハードウェア/ソフトウェアの両方についての実験など、学べば学ぶほど身に付いたことをよく覚えています。

単にコンピュータを利用する技術だけでなく、コンピュータや情報システムを設計・実現するための技術は社会的に重要です。新しい考え方に基づいた研究は、次の時代の社会に大きな影響を与えることができるでしょう。世の中がグローバルに大きく変わろうとしているこの現代に、コンピュータや「情報」はいかに人間や社会に関わるかについて、じっくり研究することができるでしょう。そうすれば、新しい学問を切り開くことができるでしょう。

情報科学類には、新しい道を切り開く方法を学ぶ環境があります。ぜひ、多くのチャンスをつかみに来てください。



榮樂 英樹

2005年卒

株式会社イーゲル

情報科学類には、「情報特別演習」という演習があります。この演習は、通常の演習とは異なり、学生個人の興味や能力に応じてテーマが決められます。もし腕に自信があれば、大学院生も顔負けの高度な技術を必要とするようなテーマも設定可能です。私は、情報学類2年次に、この「情報特別演習」で、パソコンを仮想化する簡単な仮想マシンソフトウェアを開発し、さらに、学会で発表もしました。それがきっかけで、その後も仮想マシンに関わる研究を続け、修士号取得後は研究員として、新たな仮想マシンソフトウェアを開発する仕事に2年間携わりました。

情報科学類には多くの先生方が在籍しており、何か興味のあることがあれば、その分野に詳しい先生が必ずいらっしゃると思います。コンピュータについて全然詳しくない人でも、いろいろな授業を受けていくうちに、自分の興味のある分野が何なのか、見えてくると思います。

筑波大学は、情報科学類以外にも多くの先生方が在籍しており、たとえば単なる体育の授業であっても、世界トップレベルの先生から指導を受けることができたりするのは、他大学にはない大きなメリットです。サークル活動も盛んで、学園祭やスポーツデーといったイベントも見逃せません。ぜひ、いろいろなことに挑戦してみてください。



星月 優佑

2009年卒(早期卒業)

システム情報工学研究科
コンピュータサイエンス
専攻2年

私は早期卒業制度を利用して3年間で筑波大学を卒業しました。こう聞くと日夜勉強漬け、実験漬けの退屈な大学生活を想像する方が多いかも知れませんが、私の3年間の大学生活を振り返ってみると決して退屈なものではありませんでした。それどころか、自分の好きな勉強に夢中で、あっという間に終わってしまったように感じます。そして、その理由はやはり筑波大学、情報科学類の環境によるところが大きいと思います。例えば、情報科学類のカリキュラムには英語や数学などのように講義形式で学ぶ科目だけでなく、情報特別演習に代表される、実践的な科目がいくつかあります。これは一年間、自分が興味のあることについて追及し、他の学生の前でプレゼンテーションを行うものですが、高校までのように「与えられた課題を完璧にこなす」ことよりも「自分で問題提起をして最適解を見つける」ことが要求されます。大学院生となって研究活動に勤しむ今となっては当然のことですが、当時はとても新鮮な体験だったことを思い出します。また、筑波大学の情報科学類には計算理論からハードウェア、ソフトウェアなど様々な分野の先生がいるので、どんなことでも興味さえあれば挑戦することができます。高校までの勉強は「やらされている」印象があったかもしれませんが、そのような退屈な勉強に飽き飽きしている人こそ、この情報科学類に来て学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。



村田 雄一

2009年卒

システム情報工学研究科
コンピュータサイエンス
専攻2年

2008年度学長表彰

情報科学類の魅力といえば一言で語りきれない部分がありますが、そのなかでも「自分のやりたいことがやれる」というのはとても大きな魅力だと思います。授業も実験実習のテーマもとても多くの選択肢が用意されていて、そのなかから自分の気になる、やりたいものを選んで取り組むことができます。自分の選んだ授業、実習であるから、とにかく楽しんで取り組むことができます。

また、色々な立場の人から絶えず刺激を得られることも大きな魅力であると思います。様々な経歴を持つ先生方、色々な国から集まってきた留学生、また、学類1年から入学した学生に、学類3年で編入してきた学生。実に様々な人が集まっています。中には、学会等で大きな手柄をあげる人や、ベンチャー起業をしてしまう人もいます。こうした方々から受ける刺激はとても大きなモチベーションにつながります。

これから情報学群を目指すみなさんが、自分のやりたいことを学び、仲間たちから絶えず刺激を受けるなかで、ゆくゆくは社会に認められる様な大活躍をしてくれることを期待しています。



肖 夏

2007年入学

情報科学類4年

中国からの留学生

情報科学類と聞くと、コンピュータに詳しい人が学ぶところとイメージするかもしれませんが、しかし、実際はむしろ私のように詳しくなかった人がたくさん入学しています。最初はプログラミングが全然できないなど、困ったこともありましたが、先生や先輩たちが丁寧に助けてくれますし、自分で頑張って乗り越えているうちにめきめきと上達していきました。だから、コンピュータの初心者でも全く問題ありません。情報科学類の魅力は、単に知識を学ぶだけではなく、実践力を身につけるためのカリキュラムが充実していることにあります。特に2009年からは組み込み技術キャンパスOJTが始まるなど、実践力を高めるチャンスが数多く提供されています。

また、筑波大学ではどの施設も設備が整っています。例えば、24時間利用できる計算機室や約4,000人が住める学生宿舎などがあります。大学内を循環バスが走っているため移動にも便利です。大学周辺には大型のショッピングセンターもいくつかあります。サークル活動も盛んで、スポーツや趣味を楽しんだり、それを通じて他学類の友達もたくさん作れます。快適な環境で充実した大学生活を送りたい人、コンピュータに興味がある人、ぜひ筑波大学に来てください。きっと楽しい思い出を作れますよ。



武田 慎之介

2008年入学

情報科学類3年

クラス代表

筑波大学では様々な学問を学ぶことが出来ます。ほぼ全ての学類が同一のキャンパスに設置されているので、情報科学類生でも、例えば経済・経営のことや、社会学などの自分の興味がある好きな学問を学ぶことが出来ます。他の大学は、理系と文系のキャンパスが異なる場合も多く、こうはいきません。また、筑波大学はとても環境の整った大学です。私達には、一年生の時から、24時間いつでも使える学類生専用の計算機室(コンピュータ室)があります。ここには300台以上ものパソコンが用意されていて、空調も常時最適に調整され、集中して学問に励むことが出来る環境になっています。

また、ここ「つくば」は住みやすい街です。つくばエクスプレスの開業に伴い、街が飛躍的に発展し、なんと、住みよさランキング(都市データパック東洋経済)では日本全国の全784市のうちで、つくば市は第2位に輝きました。

さて、ここまでいろいろと書いてきましたが、私が感じている筑波大学の一番の特徴は「人」です。筑波大学には個性的な人が大勢います。個性的であるということは、「自分」というものを自由に表現出来ているということです。筑波大学では皆が、自由に「自分」を表現した学生生活をおくっています。筑波大学で、あなたはきっと数多くの個性的な良い友人と出会うことが出来るでしょう。そして、あなた自身も「個性的」になれることを、私は確信しています。



伊藤 剛浩

2009年入学

情報科学類2年

AC入試により入学

私は2009年のAC入試で情報科学類に入学しました。

筑波大学の情報学群にはさまざまな学生を応援する仕組みがあります。たとえば、大学に入って、すぐにでも研究を始めたいと思っている人を応援する「理数学生応援プロジェクト：先導的研究者体験プログラム」や、研究結果を社会へ貢献するための研究室である「産学間連携推進室」というのがあり、やりたいことがはっきりしていて研究室の趣旨に合っていれば1年生からでも入ることができます。私自身これらにてプロセッサアーキテクチャについて研究活動をしていて、他分野の友達や教授と討論して非常に有意義な研究活動をおくっています。まだ何をしたいか分かっていない人でも、きっと講義を受けていく中で自分がやりたい分野を見つけることができると思います。

研究だけではなくありません。筑波大学はほとんどの学類が筑波キャンパスと春日キャンパスに集中しています。広くて移動が大変ですが、他分野の講義を受けることもできて、新たな発見ができ、多くの人とも知り合うことができます。

つくば市は静かで勉強や研究にも集中できるし、近くには大型のショッピング施設もあります。都心に出るのにもつくばエクスプレスを使えば45分で秋葉原につき、生活しやすい街です。

皆さんもぜひ筑波大学で自分の夢を実現させてください。

教員からの一言



伊藤 誠

情報技術が人間にリスクをもたらさないように、人間の認知のメカニズムに適合させたシステムデザインを日々考えています。1秒を争う自動車の運転の世界で、ドライバに情報をいつ・どのような形態で伝えるか、システムはどこまで介入してよいのか、人間とシステムとの間の望ましい関係はどのようなものか、こんなことを考えるのも立派な「情報」の「科学」だと思います。



大矢 晃久

普段の生活の中で人間の役に立つロボットを作りたい。そのために必要なロボットの知能(賢さ)の研究をしています。大学は、実社会に出て行く前に残された最後の自分探しの場所です。専門分野の勉強はもちろん、自分の主張や成果を発表するためのプレゼンテーションスキル、立ちはいはだかる問題を分析し解決する能力など、実社会で必要となる実に様々なことを学びながら、自分の将来に対する答えや夢を見つけていってください。



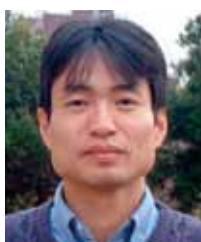
福井 和広

ロボットなどの機械システムに登載される視覚機能をコンピュータビジョンと呼びます。我々は顔や物をいとも簡単に識別することができますが、これをコンピュータで行うことは極めて難しい問題です。コンピュータビジョンの研究を進めるにつれて、高度な人の視覚機能には本当に驚かされます。好奇心、意欲に満ちた皆さん、筑波大学で一緒にこの難問に取り組みましょう。



朴 泰祐

「世の中のあらゆる自然現象を計算機シミュレーションで実現する」ーこれは計算機を作る者と使う者が共有する、究極の夢です。物理学や化学の世界でこの夢に一步でも近づくためには、とんでもない性能を持つスーパーコンピュータが必要です。数百万、あるいはそれ以上のプロセッサを持つ超並列計算機によってこれが実現できると信じています。世界最高速の計算機を作り、この夢に近づくために、ぜひ若い皆さんの力を貸してください。



南出 靖彦

プログラム言語やソフトウェアの検証について研究しています。数学的な理論と実践的なプログラミングの両方に興味があり、両方のバランスのとれた研究を目指しています。情報学類生には、理論と実践をバランスよく勉強し、将来の研究や仕事の基礎をつくってもらいたいと思います。理論の勉強も、プログラミングもとっても楽しいです。



和田 耕一

コンピュータ同士が高速に情報交換できる高性能ネットワークの研究を行っています。コンピュータを与えられた道具として使うだけでなく、中身や本質を深く理解することで皆さんもオリジナルなシステムを作れるようになります。私たちの学類では、ハードウェアからソフトウェアまで幅広く、かつ深く学ぶことができます。自分で何かを作り出す喜びを感じてみませんか？

履修の進め方と授業科目

※これは、平成22年度の授業科目です。

1 年 次		2 年 次	
専門科目			
コンピュータリテラシ・同実習 プログラミング入門Ⅰ・Ⅱ 離散構造 論理回路 ソフトウェアサイエンス概論Ⅰ 情報システム概論Ⅰ 知能情報メディア概論Ⅰ		データ構造とアルゴリズム・同実験 情報数学 論理回路実験 ソフトウェアサイエンス概論Ⅱ 情報システム概論Ⅱ 知能情報メディア概論Ⅱ Mathematics for Computer Science 数値計算法 システム制御概論 情報理論 論理と形式化 電気回路 機械語序論 論理システム・同実験 ソフトウェア技法 ソフトウェア構成論 コンピュータグラフィックス基礎	
数学・物理学			
線形代数Ⅰ・Ⅱ 解析学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		複素関数論 確率論	力学 電磁気学 シミュレーション物理
個人発想型科目			
情報特別演習Ⅰ 技術英語Ⅰ			
学群共通科目			
情報社会と法制度 知的財産概論			
一般的 な科目	フレッシュマンセミナー 国語 第1外国語 第2外国語		
	総合科目(広い視野で学ぶための全学共通科目)		
	自由科目(他学群、他学類の科目から選択)		
	体育		

情報科学類では、基礎技術から応用技術、理論から実世界のシステム、ハードウェアからソフトウェア・知能情報メディアまでをカバーするカリキュラムにより、日夜発展する情報科学技術の多様な側面を幅広く、また、その原理や仕組みを奥深く学習することができます。

詳しくは情報科学類のWebページをご覧ください。

3 年 次

4 年 次

主専攻共通科目

プログラム言語論
数理アルゴリズム
人工知能
計算機アーキテクチャ

コンピュータネットワーク
オペレーティングシステムⅠ
データベース概論Ⅰ
信号処理概論

パターン認識
ヒューマンインタフェース

専門科目

※3主専攻のいずれか1つを選択

ソフトウェアサイエンス主専攻

プログラミング論

プログラム理論
宣言型プログラム論
オートマトンと形式言語
計算モデル論
計算論理
システム検証論
ソフトウェアサイエンスセミナー

数理情報

情報確率過程
数理メディア情報学
数値シミュレーション
インタラクティブCG

人工知能

エージェントシステム

ソフトウェアサイエンス実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

情報システム主専攻

計算機工学

並列処理アーキテクチャ
システム評価技法
VLSI工学

ソフトウェアシステム

プログラム言語処理
オペレーティングシステムⅡ
システムプログラム
分散システム
ソフトウェア工学
データベース概論Ⅱ
情報検索概論

電子・通信工学

電子回路

情報システム実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

知能情報メディア主専攻

知能情報

認知科学概論
統計学
自然言語処理
生体情報科学概論
知識処理概論
確率的知識処理
情報セキュリティ

情報メディア

信号解析
ディジタル信号処理
音声聴覚情報処理
画像情報処理
メディア通信工学
画像システム工学

知能情報メディア実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

個人発想型科目

情報特別演習Ⅱ
インターンシップⅠ・Ⅱ

技術英語Ⅱ

卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
専門語学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

自由科目(他学群、他学類の科目から選択)

体育

Graduation Studies

卒業研究テーマ

※これは、平成22年度の卒業研究テーマです。

▼ソフトウェア科学

卒業研究テーマ	担当教員
記号計算、ソフトウェア検証、宣言型プログラミング	井田 哲雄 南出 靖彦 Mircea Marin
プログラム言語と論理	亀山 幸義
フルエンシ情報理論とその新世代ネットワークへの応用 一省エネ向け新世代マルチメディア智慧システムの設計と評価	片岸 一起
データベース・情報検索・データマイニング・コンテンツマネージメント	北川 博之 天笠 俊之 川島 英之
実社会情報のデータマイニングと機械学習	佐久間 淳
ヒューマン・コンピュータ・インタラクション、コピキタスインタフェース、 インフォメーションビジュアライゼーション	田中 二郎 三末 和男 志築 文太郎 高橋 伸
・平均値保存型画像フィルタの実装 ・交流成分予測に基づくニアロスレス階層符号化の構成	徳永 隆治
情報セキュリティ：情報セキュリティ基盤技術による安全な情報社会の構築	満保 雅浩
知性計算機科学ープログラム理論と音楽情報学	水谷 哲也
人間ーコンピュータ相互作用(HCI)における記号計算プログラミング	山本 順人 細野 千春
モバイル/パーベイスブ/センサーネットワーキング、分散処理、情報ネットワークセキュリティ	李 頤

▼計算機システム

言語処理系、システムソフトウェア(OS)、分散システム、コンピュータネットワーク運用・管理	板野 肯三 新城 靖聡 佐藤 聡
コンピュータネットワークシステムに関する研究	海老原 義彦 木村 成伴
システムソフトウェア(仮想マシンモニタ、オペレーティングシステム)の研究	追川 修一
オペレーティングシステム、自律分散システム、仮想マシン、インターネットセキュリティ、 システムソフトウェア全般	加藤 和彦 品川 高廣 杉木 章義
計算機システムの省電力化技術、GPGPUを含む演算加速機構向けのプログラミング言語、 クラウドコンピューティング、高信頼化技術	佐藤 三久
アナログ電子回路	庄野 和宏
高性能数値計算に関する研究	高橋 大介
数値計算手法に関する研究	多田野 寛人
次世代ファイルシステム、超高速データコンピューティング、クラウドコンピューティングの研究	建部 修見
データベースシステムおよび情報検索システムに関する研究	陳 漢雄 古瀬 一隆
持続可能な情報システム環境のためのデータ駆動ネットワーキングアーキテクチャ	西川 博昭 富安 洋史

1. 大規模並列システムの通信性能最適化に関する研究 2. マルチコアシステムにおける演算・通信性能最適化に関する研究 3. 組み込みシステム向け省電力耐故障高性能ネットワークの開発	朴 泰 祐
ネットワーク社会におけるWebシステムプログラミングに関する研究	前 田 敦 司 山 口 喜 教
VLSIの基礎技術とその応用に関する研究	安 永 守 利
ネットワーク関連アーキテクチャ、セキュリティに関する研究	山 口 喜 教 前 田 敦 司
次世代コンピュータを視野に入れた VLSI の機能・性能に関する研究	山 口 佳 樹
並列/分散コンピューティング、マルチメディア処理システム	和 田 耕 一

▼知能情報

人間適応型のヒューマンマシンコラボレーション	稲 垣 敏 之 伊 藤 誠
知能ロボット	大 矢 晃 久
暗号と情報セキュリティ	岡 本 栄 司
進化的アルゴリズムと人工生命	狩 野 均
学習、適応情報処理	亀 山 啓 輔
画像・映像・音楽メディア情報処理と医用画像工学	工 藤 博 幸
視覚科学	酒 井 宏
知的画像処理	滝 沢 穂 高 山 本 幹 雄 乾 孝 司
人間の情報処理メカニズムの理解とその工学的応用の展開に関する研究	平 井 有 三
コンピュータビジョン・パターン認識	福 井 和 広
3次元コンピュータグラフィックス (CG) 技術とその応用に関する研究	福 井 幸 男 三 谷 純 金 森 由 博
人と機械の協働のための認知工学的コミュニケーション支援	古 川 宏
メディア知覚品質評価とメディア情報処理の研究	牧 野 昭 二 山 田 武 志
自然言語処理 on the Web	山 本 幹 雄 乾 孝 司 滝 沢 穂 高

▼情報数理

コントロールデザインとシステムモデリング	河 辺 徹
理的手法を用いた情報モデリングとアルゴリズム	北 川 高 嗣 櫻 井 鉄 也
アルゴリズムと最適化	久 野 誉 人
インタラクティブ CG, ビジュアル化、高性能・高機能シミュレーション	蔡 東 生 J・B・コール
マルチクラス待ち行列の解析と通信ネットワークの性能評価への応用	平 山 哲 治

ソフトウェアサイエンス主専攻

『美しい音色の音楽で心地よい目覚めの朝を迎えた「私」は、朝食を取ろうと冷蔵庫を開けた。これも親孝行。実家では「私」が冷蔵庫を開けたことだって分かるようになっていた。親子でもプライバシーが必要だと思うのだが… 携帯の鳴る音。最近の携帯は、大型スクリーンにも表示できてインタラクティブ可能。便利になったものだ。元気な親の姿を見て、安心した「私」は、いつものように世界のニュース・お天気情報を収集する。最近の天気予報は信頼できる。モデル化と解析方法が良くなったらいい。おっと、アシスタントロボットが遅刻しないように催促しにきた…。移動しながら調べることにするか。』

これは、我々が予想するIT（情報技術）がもたらす未来のほんの一場面に過ぎません。コンピュータは様々な機能を備え、我々の生活に浸透し始めています。これは、現代のコンピュータが既に、複雑な情報を即座に処理する能力を持ち始めているからです。今後、さらに進化した未来のコンピュータを用いれば、自然や社会、更には、人間の脳に存在する多種多様な情報を取り扱えるようになることが期待されます。しかし、そのためには、情報とは何かを知り、目に見えない情報を如何に表現して処理すべきかを考えることが必要不可欠です。ソフトウェアサイエンス主専攻では、情報の本質に迫り、情報の意味・表現・処理の基本となる理論と応用技術を学びます。

キーワードは、『プログラミング&コンピューティング(含 セキュリティ)』、『ロボティクス&インタフェース』、『モデリング&アルゴリズム』です。これ



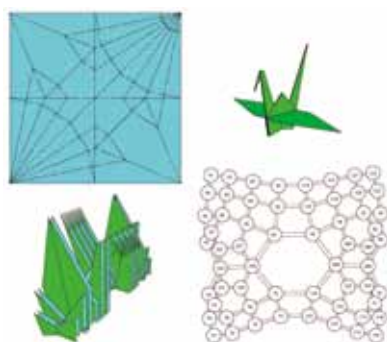
テーブル型の遠隔協調作業システム



美しい音楽の分析と創造

らの技術が冒頭の未来の「私」の生活を支えるのです。

ソフトウェアサイエンス主専攻では、情報を『ソフトウェア』と『コンピューティング』の視点で捉え、演習・実習を取り入れた初歩からの教育を通して、未知の問題に対処し、新しい分野を切り開く能力を有する人材を育成します。



記号計算と幾何モデリングに結びつくコンピュータ折紙

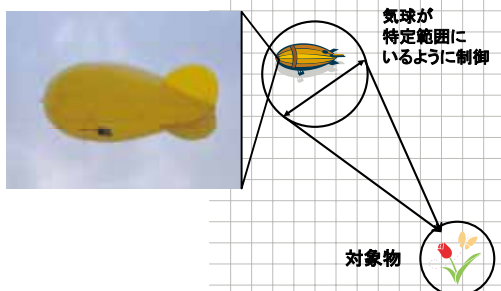


人間を認識して追従する移動ロボット

情報システム専攻

情報処理の基盤的な技術は、コンピュータという目に見える形ではなくても、いたるところで使われるようになってきています。たとえば、携帯電話や携帯音楽機器、あるいはデジタル家電などにおいても、それらはハードウェアやソフトウェアを自在にあやつることのできる情報処理の基本技術の上に成り立っています。また、インターネットの世界を一変するような新しい使われ方も、実際には、情報システムを支え、発展させるために時間をかけて研究開発されてきた技術で支えられています。情報システム専攻では、これらの基盤となる情報技術の本質を学ぶだけでなく、それらをいかに応用するかという点も重視しています。たとえば、実際にコンピュータや情報システムの中身はどうなっていて、それらを設計するにはどうすればよいのか、ネットワークの仕組みはどうなっていて、どのような使い方ができるのか、ホームページを利用して新しい情報のサービスを行うにはどのような技術が必要か、などに関して基礎的な考え方から応用まで、演習や実習を交えながら理解することができます。

情報システム専攻では、これらの基盤情報技術の本質を理解し、未来におけるさらなる発展を担う人材の育成を目指して教育を行っています。これらの基本的な技術を学ぶことによって、目覚ましい勢いで発展を続ける情報関連技術を使いこなすだけでなく、新しい技術を生み出す担い手としての考え方や知識を習得することができます。

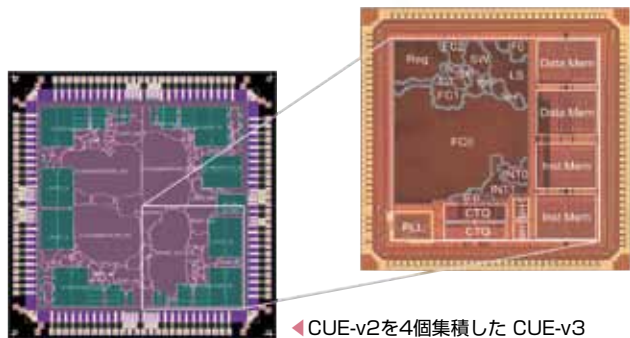


繫留気球を利用した警備カメラシステム



クラスタ計算機による高性能計算処理の研究

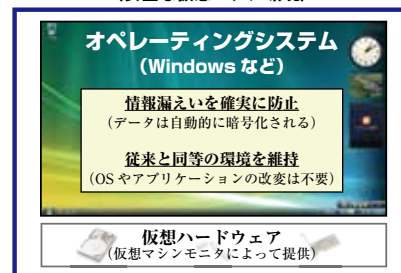
▼独自プロセッサCUE-v2



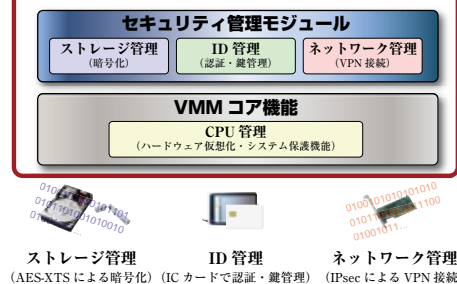
◀ CUE-v2を4個集積した CUE-v3

ネットワーク向きプロセッサ

セキュアVM
(安全な仮想マシン環境)



仮想マシンモニタ「BitVisor」
(セキュアVMを実現するソフトウェア)



セキュア仮想マシンモニタ BitVisor

知能情報メディア主専攻

私たち人間は、視覚や聴覚などの五感や他人とのコミュニケーションにより情報を得、それを基に状況を認識して、適切な判断をする知的処理能力を身につけています。近年、科学技術の進歩により、私たちを取り巻く環境は一変し、コンピュータやネットワークにより多種多様で膨大な情報や知識が得られるようになりました。その結果、これらをうまく利用することで、人のもつ能力を最大限に引き出すことが可能になりました。しかし、これらの膨大な情報から適切なものを選択し、人間に理解しやすい形で提供できなければ、それらは無駄なものになるだけでなく、誤った判断や行動につながる危険性もあります。

そのため、知能情報メディア主専攻では、人が自然に持っている知的能力やコミュニケーション能力をコンピュータや機械に与え、逆に情報や知識を得る技術を学びます。例えば、コンピュータにどのようにして知識を与えるのか、それを使えばどのような思考や推論が可能となるのか、また、人は音声、画像、立体映像などをどのように理解し、それをコンピュータで実現して人とのコミュニケーションを可能にするにはどうすれば良いか、マルチメディア情報はどのようにデザインされ記憶・伝達されるのか、ネットワークでやり取りされる情報のセキュリティを守るにはどのような工夫が必要かなどについて、演習や実習を交えなが

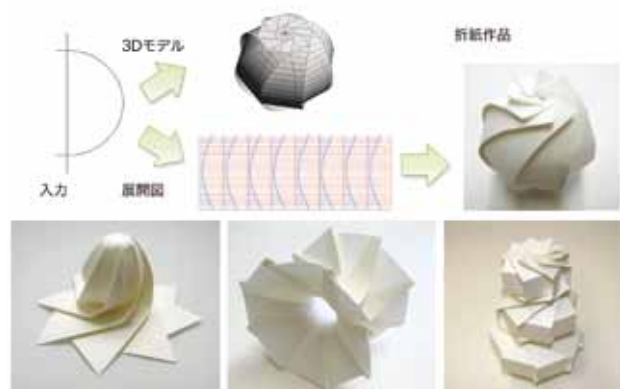


ネットワーク型ドライビングシミュレータを用いたインタラクション



大脳皮質でどのように形が符号化されているかを示すモデル（右上）と、視覚の情報処理についてのディスカッションの様子（下）

ら理解を深めます。これらの基本的な技術の習得を通して、今後ますます高度化・複雑化するコンピュータや機械を真に人間のよきパートナーとして開発・発展させる際に中心的な役割を果たすことのできる人材を育成しています。



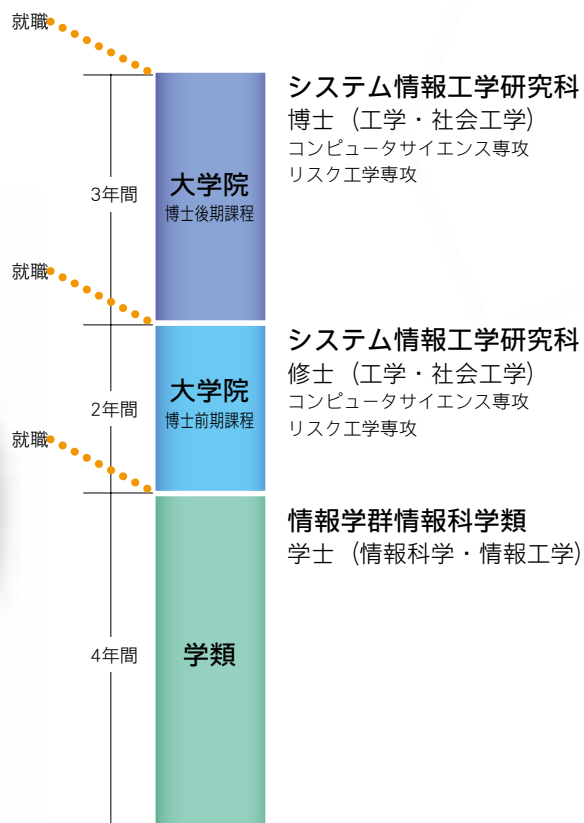
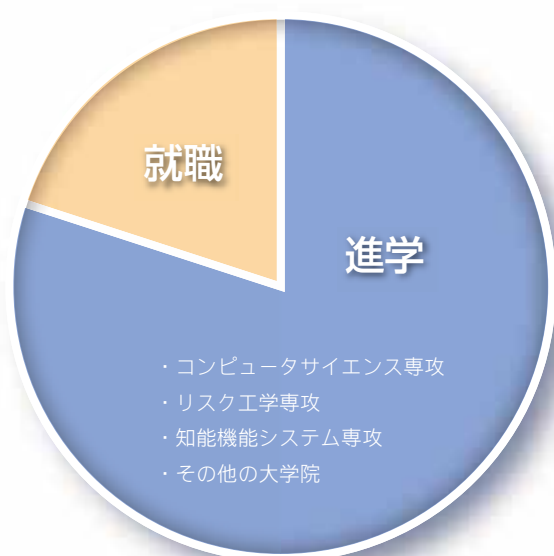
計算機を用いた立体折り紙の設計。
1枚の紙から曲面を持つ立体的な折り紙作成が出来る。



医用画像を自動解析 — コンピュータ診断支援を目指して —

卒業後の進路

情報科学類卒業生には、情報化社会の中核としての活躍が強く期待されており、前途は非常に有望です。前身である情報学類の卒業生の進路は、近年は約80%が大学院進学です。企業への就職は、情報・通信・コンピュータ関係を始め、電機、自動車などの製造業から、マスコミ・出版にいたるまで、きわめて広い分野にわたっています。このように、分野を越えて活躍の場があることは、情報科学に特有の自在さといえるでしょう。大学院には博士前期課程と後期課程があり、そこに進学した人は、さらに深く勉強して研究を行った後、大学などの教育研究機関や企業の研究所などで活躍しています。



■ 卒業生の主な就職先

- ・情報・通信：NEC、富士通、NTT データ、NTT コムウェア、NTT コミュニケーションズ、NTT アドバンステクノロジー、NTT データクリエーション、日本 IBM、NEC ソフト、PFU、日本オラクル、日立ソフト、アルファシステムズ、日本ユニシス、住商情報システム、ドコモ・システムズ、NEC システムテクノロジー
- ・電気・電子：日立製作所、三菱電機、ソニー、松下電器産業、松下電工、松下通信工業、シャープ、アルパイン、三洋電機、サウンドクルー、セイコーエプソン、ビクターテクノプレーン、スター精密
- ・通信サービス、生活サービス：NTT、NTT ドコモ、日本テレコム、JR 東海、JR 東日本、シスコシステムズ、ナムコ、コナミ、セコム、KDDI、コーエー、ヤフージャパン
- ・機械、自動車、素材・エネルギー：キヤノン、リコー、富士ゼロックス、トヨタ自動車、日産自動車、中部電力
- ・マスコミ・出版、銀行・保険など：テレビ静岡、朝日新聞、大日本印刷、凸版印刷、日本放送協会
- ・公務員、教員

入学定員 80名

(1) アドミッションセンター (AC)入試(募集人員8名)

情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題解決する能力を持つ人材を求めます。

願書受付：9月、試験時期：9～10月、試験科目：書類選考と面接・口述試験

(2) 推薦入試(募集人員10名)

高等学校における学習状況と課外活動への取組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。

願書受付：11月、試験時期：11月、試験科目：書類選考と小論文・面接

(3) 前期学力検査(募集人員50名)

総合的な基礎学力に加え、情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、理科、外国語の学習内容に対する理解度を評価します。

願書受付：1～2月、試験時期：大学入試センター試験1月・個別学力検査2月

試験科目：【大学入試センター試験】国語、地歴・公民(世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経から1)、数学(数Ⅰ・数A)、数学(数Ⅱ・数B、工、簿、情報から1)、理科(理総A、理総B、物Ⅰ、化Ⅰ、生Ⅰ、地学Ⅰから2)、外国語(英(リスニングテスト含む)、独、仏、中、韓から1)

(注)平成24年度入学者選抜から、地歴・公民は(世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1)に変更となります。

【個別学力試験】外国語(英Ⅱ・リーディング・ライティング、独、仏から1(事前選択))、数学(数Ⅱ・数Ⅲ・数B・数C)、理科(物Ⅰ・物Ⅱ、化Ⅰ・化Ⅱ、生Ⅰ・生Ⅱ、地学Ⅰ・地学Ⅱから2)

(4) 後期学力検査(募集人員12名)

総合的な基礎学力に加え、情報科学や情報技術への関心や学習意欲、学習に必要な論理的思考能力や応用力を評価します。

願書受付：1～2月、試験時期：大学入試センター試験1月・個別学力検査3月

試験科目：【大学入試センター試験】前期学力検査と同じ。

【個別学力試験】面接

編入学(募集人員10名)

願書受付：5～6月、試験時期：7月

試験科目：専門科目(数学、情報基礎、物理学から選択)、外国語(英語)、面接

以上の他に、私費留学生試験(若干名)、帰国生徒を対象とする2学期推薦入試(若干名)、国際科学オリンピック特別入試(若干名)などの制度があります。なお、試験科目等に変更があることがありますので、入試に関する情報は、最新の募集要項でご確認頂くか、直接お問い合わせください。

過去の入試問題の一部は、ウェブページまたは郵送で入手できます。詳しくは、情報科学類ウェブページ(下記)をご覧ください。

問い合わせ先：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学教育推進部入試課

(電話：029-853-6007)

e-mail：gm.nyusika@un.tsukuba.ac.jp

または情報学群情報科学類長室

(電話：029-853-4962)

e-mail：inquiry@coins.tsukuba.ac.jp

またはアドミッションセンター

(電話：029-853-7385)

■筑波大学Webページ

<http://www.tsukuba.ac.jp/>

■情報科学類(情報学類)Webページ

<http://www.coins.tsukuba.ac.jp/>

■アドミッションセンター Webページ

<http://ac.iit.tsukuba.ac.jp/ac/>

情報科学類では、高等専門学校卒業者(卒業見込みを含む)、大学に2年以上在学して規定の単位を修得した人(修得見込みを含む)、外国の大学を卒業した人(卒業見込みを含む)などを対象として、編入学生を募集しています。

編入学生はこれまでも非常に活躍してきました。推薦を受けて大学院に進学し研究を行っている学生は多数いますし、学群長表彰をうけた学生もいます。情報科学や情報技術を学びたい、研究したいという意欲のある人を歓迎します。

■単位認定

高専、短大、大学等で修得した科目の単位を、本学の単位として認定する制度です。修得した科目の内容と本学類の科目の内容を照らし合わせて、個別に認定します。認定されるのは、本学類1～2年次配当の科目である語学、教養科目、体育等の基礎科目、情報の基礎科目などです。

■カリキュラム

編入学する年次は原則として3年次ですが、既修得単位その他の状況により、2年次または4年次への編入となることがあります。

3年次に編入すると、すぐ各主専攻に配属され、主専攻実験、専門科目など専門的教育をうけられます。4年次には研究室に所属して卒業研究を行います。

■入試

編入学試験では専門科目(数学・情報基礎・物理学)、外国語(英語)、面接による選抜を行います。英語は必須で、数学・情報基礎・物理学は各2問、計6問のうち4問選択です。面接では、目的意識と学習意欲を示すことがポイントとなります。

■2009年度入学試験状況

志願者…94名 (情報メディア創成学類との併願者
57名を含む)

合格者…29名

入学者…20名

■入試問題について

過去の編入学試験の問題は、情報科学類ウェブページで一部を公開しています。また、コピーを郵送にて入手することもできます。詳細はウェブページの「入試情報」を参照するか、情報科学類長室にお問い合わせください。

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学 情報科学類長室

E-mail : inquiry@coins.tsukuba.ac.jp

■編入学のためのQ&A

Q. 高専と大学の違いは？

A. 大学の方がゆったりしていて自由である、授業や課題がより専門的である、特に筑波大学には幅広い分野の魅力ある講義が数多くある、という意見をよく耳にします。

Q. 卒業に必要な単位を修得するのは大変ですか？

A. 単位互換制度により80単位(卒業に必要な単位の6～7割)まで認められます。高専卒の場合、主に4、5年でとった単位が認定されます。

Q. 他学類の授業を履修できますか？

A. 履修できます。興味に応じて履修すると良いでしょう。

Q. 学生宿舎には入れますか？

A. 入れます。民間のアパートと比べると友人ができ易いというメリットがあります。

■卒業生からのメッセージ



児玉 吉晃 (2007年度編入学)

2009年卒
システム情報工学研究科
コンピュータサイエンス専攻2年
2008年度学群長表彰

私は工業高等専門学校の電気情報工学科から、情報学類の3年次に編入学しました。編入学というと、卒業単位の取得が大変ではないかと不安になる方も多いと思いますが、大丈夫です。情報科学類は、単位認定などの編入生に対するサポートが充実しており、ほとんどの人が大学1、2年生の単位を認められ、一般の3年生と同じように講義を受けることが出来ます。

情報科学類には、たくさんの先生がいるため、講義や研究の分野が非常に広く、高専の授業や研究で興味を持った分野について、より深く学び、研究することができます。また、様々な分野に触れることで、新たな興味もわいてくるかもしれません。筑波大学では、情報科学類だけでなく他学類の講義も比較的自由に取ることができるため、情報分野に限らず、興味あることをどんどん勉強できます。

筑波大学はサークル活動も盛んです。大学の規模が大きいので様々なサークルがあり、編入生でも気軽に参加できる場所も多いので、多くの編入生が趣味やスポーツを楽しんでいます。サークル活動は、様々な分野の人と交流を持つ良い機会であり、大学の魅力のひとつです。

筑波大学情報科学類は様々なやりたいことが十分にでき、高専生のポテンシャルを発揮しやすい環境だと思います。この素晴らしい環境で大学生活を送ってみませんか？

Q 情報科学類を卒業した後の就職状況を教えてください。

A 情報科学類は就職に関して最も実績のある学類の一つです。例えば、昨年度(2009年度)は、就職希望の学生約20名に対して、情報学類に届いた求人は260社以上に上りました。情報技術に精通した人材は、ありとあらゆる業種において必要とされており、これからも発展し続ける情報化社会を牽引する存在となるでしょう。

Q 大学院への進学状況を教えてください。また、大学院へ進学した人たちの就職はどのようになっていますか？

A 2009年度の情報学類の実績では、卒業生127名のうち107名が大学院に進学しました。情報科学類で身につけた能力を大学院でさらに磨きをかけることにより、就職に関してはより広い可能性が開けます。例えば、大企業の研究者から大学教官まで研究の第一線で活躍する先輩、高度職業人として企業の開発現場のリーダとして活躍する先輩、あるいは学んだ技術をもとに自らの会社を興す先輩等、まさに様々な職業で活躍しています。

Q コンピュータを使った経験はわずかで、プログラムといえるようなものほとんど書いたことがありません。情報科学類に入学しても大丈夫でしょうか？

A まったく問題ありません。コンピュータの専門家としての教育はほとんどの学生が大学で初めて経験することであり、不正確な知識や先入観のない方が本当の専門的知識を学ぶ上で有利になることさえあります。真に必要なものはやる気です。それでも心配という人もいると思いますが、大丈夫。1年生1学期の「コンピュータリテラシ(実習)」という基礎科目でコンピュータの扱いに関する基本的な技能を身につけますが、その時点での経験の違いによってコース分けを行い、前提となる知識に応じたきめ細かい指導を実現しています。

Q 情報科学類生として勉強していくには、自分のPCを持っている必要はありますか？

A 情報科学類では24時間、十分な台数のコンピュータを利用可能になっています。自分のPCを持っていなくても、学習に全く差し支えはありません。ただし自分で持っていれば、いろいろなオペレーティング・システムやソフトウェアを使ってみる等、さまざまな有意義な使い方ができるでしょう。

Q 情報科学類では、どのような科目が学べるのでしょうか？

A 情報科学類は、他大学ならば3学科分に相当する科目が用意されており、本パンフレットの「履修の進め方と授業科目」の頁に掲載されている、情報関連の数多くの科目の中から学ぶことができます。また、各人の興味に応じて目標を設定し、アドバイザー教官の助言を得ながら学習を進める「情報特別演習」、少人数で専門分野の英語を学ぶ「技術英語」が用意されていることも大きな特色です。全学規模で運営されている、広範な学問分野を概観できる「総合科目」も魅力ある授業です。さらに、他学群・他学類で開講されている科目も比較的自由に受講可能となっています。

Q 教職の資格は、どのようなものが取得できますか？

A 必要な科目を履修して要件を満たした場合には、下記の資格が取得可能です。

高等学校教諭一種 情報、数学

中学校教諭一種 数学

さらに必要な科目を履修して要件を満たした場合には、上記以外の高等学校教諭一種および中学校教諭一種の免許状を取得することも可能です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

筑波大学 教職課程ホームページ

<http://www.tsukuba.ac.jp/education/tt-programs/>

キャンパスライフ



筑波大学では、快適な勉強環境を提供するため、キャンパスの北地区と南地区に学生宿舎（男子寮、女子寮）を設けています。収容人員は約4千人で、新入生は優先的に入居できます。居室には個室と2人部屋があり、ベッドや机、洗面台、暖房設備などが全室に備え付けられています。共用棟には、食堂や浴場、売店、理容・美容室、喫茶室など、生活に欠かせない施設が整っています。宿舎の使用料は個室、2人部屋とも、光熱費等の共益費も含めて月額約1万5千円です。

大学近辺の標準的な民間学生アパートを借りれば、月額3～5万円かかりますが、首都圏などと比べて半分程度の住居費で大学生活を送ることができます。それでもなお経済的に困難な学生には、入学金・授業料

を免除する制度が用意されています。2009年度は申請者の7割以上が全額または半額の免除を受けています。さらに、各種奨学金制度を利用することもできます。例えば日本学生支援機構に採用されれば、種別によって異なりますが、月額3～12万円の貸与を受けることができます。その他、学業に差し支えない範囲で、家庭教師などのアルバイトを斡旋しています。

学生生活に彩りを添える楽しみとして、宿舍祭（やどかり祭）、スポーツデー、学園祭（雙峰祭）、そして情報科学類独自のバグ祭など、年間を通じて各種の行事が開催されています。こうした課外活動の中心となっているのがサークルですが、文化系、体育系、芸術系など現在200以上の団体が活動しています。

学年暦（平成22年度）

April	<ul style="list-style-type: none"> ● 1～6日 春季休業 ● 1日 学年開始 ● 7日 入学式 ● 8～9日 新入生オリエンテーション ● 12日 第1学期授業開始 	4
May	<ul style="list-style-type: none"> ● 22～23日 春季スポーツ・デー ● 28～29日 宿舍祭（やどかり祭） 	5
June	<ul style="list-style-type: none"> ● 24日 第1学期授業終了 ● 25～7月1日 第1学期期末試験 	6
July	<ul style="list-style-type: none"> ● 2～8月31日 夏季休業 ● 23日 第1学期末卒業式 	7
August	<ul style="list-style-type: none"> ● 6日 第2学期入学式 	8
September	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日 第2学期授業開始 	9
October	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日 開学記念日 ● 9～11日 学園祭 ● 23～24日 秋季スポーツ・デー 	10
November	<ul style="list-style-type: none"> ● 18日 第2学期授業終了 ● 19～25日 第2学期期末試験 ● 26～30日 秋季休業 	11
December	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日 第3学期授業開始 ● 26～1月5日 冬季休業 	12
January		1
February	<ul style="list-style-type: none"> ● 24日 英語・ドイツ語検定試験 	2
March	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日 第3学期授業終了 ● 2～8日 第3学期期末試験 ● 9～31日 春季休業 ● 25日 卒業式 ● 31日 学年終了 	3

筑波大学・筑波研究学園都市周辺地図

Tsukuba Science City Map and Location of the University



- つくばエクスプレスにて秋葉原駅からつくば駅まで最速45分。

つくばセンターから「筑波大学中央行き」バス、または「筑波大学循環バス(右回り)」で「第三エリア前」まで約10分。左回りでも行けますがやや遠回りになります。

- JR常磐線にて上野駅、あるいは水戸駅からひたち野うしく駅、荒川沖駅、あるいは土浦駅西口からそれぞれ「筑波大学中央行き」バスで「第三エリア前」まで約40分。なお直行バスがない場合は、「つくばセンター行き」バスで「つくばセンター」下車、「筑波大学循環バス(右回り)」で「第三エリア前」下車。

- 東京駅八重洲南口から「筑波大学行き」高速バス、「つくばセンター行き」高速バスにて「つくばセンター」下車(約65分)。つくばセンターから「筑波大学中央行き」バス、「筑波大学循環(右回り)」バスにて「第三エリア前」下車(約10分)。または、東京駅八重洲南口から「筑波大学行き」高速バスにて「大学会館」下車(約75分)。「第三エリア前」まで徒歩(約5分)。

